

オポナカムラ 彩発見!!

オポナカムラは古代語で「大中村」の意。
 国指定史跡「大中遺跡」の最新の調査をもとに、様々な観点から
 ふるさとの誇れる遺跡について考えてみたいと思います。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター
いせきくん、やよいちゃん

第一次発掘調査の様子



2 14年におよぶ一大プロジェクトは『新しい村づくり』から!

発掘調査は、昭和37年12月25日から始まりまし
 た。発掘調査に参加したのは、学校の教師をはじめ
 近隣の高校生や大学生が多かったため、春・
 夏・冬休みを利用して進められました。一連の調
 査が終了したのは昭和50年4月のことでした。十
 数回におよぶ調査は、14年の歳月をかけてなされ、
 まさに一大プロジェクトであったといえます。

発見当時、池や田畑を埋め立てた土地開発はす
 でに行われていましたが、埋蔵文化財を保護しよ
 うとする意識は、今ほど高くありませんでした。

遺跡が発見されたすぐ北側の瀧目池つなめいけでは、大型ト
 ラックが連日土砂を運び込み、ブルドーザーが池
 を埋め立てていました。マスコミによる遺跡発見
 のニュースは、その後も取り上げられ、地元では、
 開発が保存かで揺れ動いていました。また、当時
 の播磨町（面積6平方キロメートル弱）は、村制
 から町制に移行したばかりで、人口は9千人に達
 していませんでした。開発よりも遺跡の保護が大
 切だとわかっていても、小さな町で発掘調査を進
 める力は持ち合わせていませんでした。このよう
 な中、町や県の教育委員会に陳情が繰り返され、

遺跡調査依頼が提出されました。

一方、地元「大中」では、『新しい村づくり』に
 取り組んでいました。土器片の発見を機に、先人
 の遺した足跡を無駄にせず、子どもたちのために
 住みよい美しい郷土をつくろう、という連帯の和
 が住民の中に広がっていきました。遺跡地を所有
 する地権者の方々は、精力的な話し合いが連日
 のようにもたれました。全員一致の承諾が得られ
 たのは、年の瀬も押し迫った同年12月12日のこと
 でした。遺跡発見のニュースからわずか半年後の
 ことでした。

昭和39年10月には、最初の調査報告書がとりま
 とめられ、遺跡の内容が明らかになりました。報
 告書の題字「播磨大中」は、当時の庄中佐太郎町
 長が書かれたもので、町上げての大事業であった
 ことが伺えます。

※遺跡は、全国に周知されるであろう将来を見ずえて
 「播磨・大中遺跡」と名づけられました。しかし、字
 画の多い「播磨」をいつの間にか略し、「大中遺跡」
 が多く使われるようになっていきました。

町の人口 4月1日現在

34,184人 (-8人)

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

男…16,792人 (-12人)

女…17,392人 (+4人)

世帯数…13,540 (+24)

